

(合い言葉)

一人はみんなのために
みんなは一人のために

八尾生活と健康を守る会機関紙

会報かわち

(発行) 八尾生活と健康を守る会 八尾市西山本町1-1-18

(発行責任者) 吉川 均 ☎072-997-5666

(発行日) 2020年4月12日(日) No 865号

八尾で発生した母子餓死問題を検証 二度と犠牲者を出さない対応求める



弁護士や大学教授、大阪社保協や大生連の役員
八尾社保協のメンバーが集い会議を開きました

会員のみなさん、コロナウィルス感染防止の報道や対策で、日々不安を抱えながらの生活、大変ですね。お互いに留意しながらも、国や自治体には自粛と補償を一体に要求していきましょう。

4日に関係者会議を

守る新聞に折り込んだ「会報かわちニュース」で紹介しましたが、2月22日に八尾で起こった母子の餓死問題の要点を掲載しました。

この事態は生活保護を受給していた母親と付き添っていた息子が餓死しており、家を探ねたケアマネが、声をかけても応答がないのを不審に感じ、力半がかかっているのに玄関戸を開け家に入っただけで餓死していた2人

を発見しました。

保護費取りに来たのに

なぜ対応が遅れたか

母親はくも膜下出血で入院治療した経緯もあり、足も不自由の状況で息子が肩を貸して援助をしていました。

新聞報道では12月26日が翌月1月分の生活保護費の支給日でしたが、このとき母親は保護費を受け取りに来ていませんでした。

担当ワーカーは家まで行き声をかけたが応答がないので帰ったという。

ケアマネが遺体発見

介護支援を受けていた母親を探ねたケアマネが応答がないことを不審に思い、家の中に入ったら



倒れていた2人を発見、すでに餓死していた。

昨年からの水道やガス料金の滞納を理由に停止されたときもあり、とりわけ水道の供給停止は生死に関わるライフラインです。

生活保護を受けていた事を知っていた水道局、26日の生活保護費を取りにきてない事態を注視し、訪問して声をかけて家の中に入るなどし対応していたら救済できていたかも知れないなど、特に26日の対応に問題があったとの意見が多くありました。

問題解明と対策求め

会議は小久保弁護士が進行し、続いて花園大学教授の吉永純先生から今回の餓死問題の問題点と

解明すべき点を準備された資料に基づいて説明がありました。

このあと八尾市会議員団から八尾市からの聞き取りや、地元の自治会役員や近所住民との面談された経過の報告がありました。

このあと出席者から問題点を出しあい、状況共有・確認し、対応での問題点、解明すべき点、対応での改善を求める対策など話し合いました。次回は5月後半の予定です。



お知らせ

■税申告関係の連絡

八尾生健会での税金相談、申告は3月30日で一通り終わりましたが、数名相談にいられてない方もいます。コロナウィルスの関係で税務署は4月16日以後も申告は受付するとの事です。会員外でまだの方おられたら、声をかけてあげてください。

■申告用紙の控えを守る新聞の配布ルートや、遠方の方は郵送などでお返ししています。あとわずかです完了する予定です。



会議に出席された方々

- ・尾藤、小久保 両弁護士
- ・吉永純 花園大学教授
- ・徳武 司法書士
- ・大阪社保協 寺内事務局長
- ・大生連 大口会長
秋吉事務局次長
- ・元ワーカー谷口さん(顧問)
田川さん(針通)
- ・電話相談(顧問)今村さん
- ・マスコミ関係(雑誌、期誌)
(しんぶん、雑誌、職)
- ・日本共産党市会議員
越智議員、谷沢議員、
田中議員、大野議員
- ・八尾社保協 大関事務局長
- ・八尾生健会 鈴木副会長
吉川事務局長
高橋事務局長

3月ふやしの到達

会員みなさん
税申告運動の最中、最終3月度の 会員19名
ふやし活動では会員・新聞とも1 新聞19部
9名・部の到達となりました。

多くが会員からの紹介によるものです。ご奮闘、ご協力ありがとうございました。



《5~6月春後半の運動へ》

コロナウィルス感染防止の対策もとりながら、仕事や生活など大変な方もできています。生健会をチラシや声かけで知らせながら、相談や要求解決へとがんばっていきましょう。